

中販連 だより

2013
Vol.39

中国地域指定生乳生産者団体 中国生乳販売農業協同組合連合会 機関誌

総会特集号



CONTENTS

- 第13回通常総会 報告
- 総会 ご挨拶
- 生乳受託販売委員会並びに理事会にて、大手乳業提示の飲用向けキロあたり5円の値上げ回答を受け入れへ
 - 管内酪農家全戸を対象に経営意向調査を実施
 - 事業経過報告

Chugoku Fresh Milk Sales-Agricultural Cooperative Association

第13回通常総会報告

平成24年度事業報告・ 役員改選等の上程案を承認

中販連は去る7月26日、メルパルク岡山（岡山市北区桑田町）に於いて、全会員（5会員）の出席の下、ご来賓として農林水産省生産局・中央酪農会議・5県行政、全国連（全農・全酪連）からのご臨席を賜り第13回通常総会を開催しました。

既に平成25年度の事業計画については、去る4月20日の第8回臨時総会にて承認を得ていることから、今般は平成24年度事業報告及び今年度は役員改選期に当たる事からその関連議案が主要議案となりました。総会は盛会裏のうちに進行され全議案とも全会一致で原案どおり承認されました。

総会には東山会長より、①しっかりした日本の農業を作っていただくと言う政治を我々は望んだ結果、先の参議院選挙は自民党の圧勝に終わり、ねじれが解消したことにより農政に対する不安感が払拭されたが、反面TPPの今後の行方も不安を抱かせつつある現状もある。②飼料資材の高騰・川下からの値下げ圧力等様々の不安定要素のなかで私ども中販連がどのように指定団体機能を維持していけるのか、酪農現場を支援できるか更に問われる状態である。③25年の新しい事業展開により域内需給の安定と酪農生産現場の支援に限りなく力を尽くしてゆきたい。等を骨子とする開会挨拶が行われました。続いて、ご来賓を代表して農林水産省生産局畜産部牛乳・乳製品課富澤課長補佐・一般社団法人中央酪農会議迫田専務理事よりご祝辞を頂きました（ご挨拶の詳細については後述）。議長には山口県酪農農業協同組合原田康典組合長が就任頂き、議事進行に当たって頂きました。

承認された議案の概要は以下のとおりです。

1. 第一号議案

(1) 総務部関係

- ア) 平成25年4月施行の高年齢者雇用安定法の改定を踏まえた雇用延長等に備え諸規定を改定しました。
- イ) 小口取引先とはいえ乳代支払いに短期遅延が生じた事態を踏まえ遅延債権に係る回収プロセスの見直しを実施し、担当部署との情報共有を図り約定決済に努めました。
- ウ) 酪農情勢及び当連合会の事業推進内容等に係る情報提供・理解促進に資するため機関紙「中販連だより」並びにホームページの開設運営等の広報活動に取り組みました。

(2) 業務部関係

- ア) 乳価交渉について
平成24年度の乳価交渉について、大手乳業者からはデフレ圧力による市場価格の低迷を主な理由に飲用等向けの取引価格については据え置き要求

が出され、一方、当連合会は、生産基盤の弱体化回避と飼料価格や初妊牛相場の高騰を理由に現行価格にコスト上昇分の上乗せ（実質飲用等向けキロあたり2円）要求を行いました。

交渉は難航の度を加えましたが、飲用等向け価格交渉の重要な判断材料となる生乳生産費については平成20年度当時までの費用水準に至っていないことから難航の末に据え置きとなり、乳製品向けはホクレンを中心に交渉され、脱脂粉乳・バター国際相場の高騰と国内在庫の不足や生クリーム需要の増加を背景に加工向けキロ当たり3円/kg、生クリーム向け2.5円の値上げが決まり、全国相場への進展をみせたことから当連合会においても同価格の値上げで決着しました。

イ) 指定団体機能の整備強化の推進について

- ①5県完全共販体制下において合理化メリットの創出及びその有効活用

生乳生産量が前年度に対し順調な増加を示す中で管内における生乳処理は少子高齢化、デフ



レによる牛乳消費の低迷等から停滞基調で推移し、このため増産となった数量は域外での飲用化を余儀なくされ合理化メリットは昨年度と比較して減少しましたが、年間を通じ17,740千円を確保することができ、弱体化した生産基盤の回復を促し、HOSTY生乳生産復元計画に基づく年間1%程度の増産を後押しするため生乳受託販売委員会の協議・とりまとめを踏まえて以下の対策を実施しました。

◎生産基盤の弱体化防止と増産対策のため2,000万円の予算措置による、i) 緊急導入助成、ii) 後継牛確保対策助成、iii) 育成牛保留助成の3事業から成る「生産基盤維持拡大対策助成事業」を継続しました。

◎上記対策に加え事業効果を高めるため、別に生産基盤活性化対策資金より2,000万円を同事業予算とし総額4,000万円の事業費として会員に配分を行いました。

②自然災害時乳代見舞金制度において、会員からの申請に基づき強風による停電によって発生した廃棄乳60kgに対して5,670円を支出しました。

ウ) 広域生乳検査体制の整備強化について

①平成23年11月に更新整備した生乳検査機器コンビフォスシステムFT+について、平成24年度より本格的な運用を開始し検査業務の効率化を進め、また老朽化のため浸透圧計について、畜産高度化支援リース事業を活用して更新（オズモメーター3250）し生乳検査精度管理の充実を図りました。

工) 生乳計画生産対策の運営

①平成24年度の生乳計画生産対策は中央配分による当初割り当ての計画生産目標数量292,952トン、前年度実績対比100.7%を当連合会の運営・管理数量として設定し会員別配分を行い運営しました。供給目標数量292,532トン、前年度実績比100.7%（内訳：販売基準数量290,615トン、特別調整乳1,917トン）をベースに選択的拡大生産数量420トン（チーズ向け取引実績相当）を加算した292,532トンを計画生産目標数量に設定し会員配分を行いました。

②計画生産目標数量の292,952トンは販売基本数量290,615トンに特別調整乳1,917トンを加算した供給目標数量が292,532トン、前年実績比100.7%、閏年修正後101%。更にチーズ向け取引実績相当量420トンにより構成されました。

③運営方針としては、個人別割り当ての採否は会員段階に委ね、当連合会としては会員間の流動化を調整の基本に置き一体的な運営を図ることとし、また全国で取り組む場合の過剰回避対策負担分については会員共通負担とし、必要経費については生産基盤活性化対策資金（全生乳0.17円/kg）の内0.12円相当を充てることとしました。

④計画生産の運営に際しては初妊牛の高騰による導入控えや廃業に伴う乳牛頭数の減少等の要因がありながらも大型酪農経営の伸長や1頭当たりの乳量の増加等から上期の前年実績比は102.4%と大きく回復しました。このため、中央取り決めに基づき、上期末の全国調整において1,500トンの追加枠の申請を行い承認されました。このことにより最終の供給目標数量は、294,032トン（前年実績比101.2%）に修正されました。

⑤以上の経過を経た平成24年度生乳計画生産実績は、チーズ向けを除く受託実績ベースで294,013トン（前年実績比101.2%）となり供給目標数量対比19トンの未達となったが中央における計画生産要領上のアローアンス内に収まりました。

オ) 受託乳量の状況

チーズ向けを含む総受託乳量は294,507トン、前年度実績対比101.3%となった。期別内訳としては上半期が148,644トン、前年同期比102.4%、下半期が145,863トン、同100.1%となった。会員別には広島県のみ前年度実績を下回りました。

カ) 総販売乳量

上記受託数量に公共施設分を加えた総販売実績は295,187トン、前年比101.2%となり、販売に当っては、全国連と連携を図り需給調整に努めました。

その結果、域内業者への販売は全体の91.2%に当たる269,077トン、前年度実績比100.1%、域外乳業へは8.8%に相当する26,107トン、同114.0%であり、飲用需要低迷と生産増により域外販売が増え、前年度に比べ域内比率が0.9ポイント下落しました。

キ) 用途別販売量

①全国の用途別販売実績をみると、昨年の震災影響後のサプライチェーンの復旧過程で生じた牛乳の消費増加は一過性の現象にとどまり、飲用牛乳向けは3,351千トン、前年度対比97.9%と再び減少トレンドに回帰しました。

醗酵乳等向けもインフルエンザへの効能がテレビに取り上げられた後に好調に推移し非乳業を含めた製造量ベースでは前年度比10%強の大幅増加となりましたが生乳の使用比率の減少から生乳の仕向けベースでは494千トン、同99.7%とほぼ前年度並みとなりました。

生クリーム向けは乳価値上げがあったものの需要は好調に推移し1,277千トン、同103.8%の増加となりました。

チーズ向けは北海道において乳価値上げの影響から仕向け量が減少し460千トン、同98.5%と前年度実績を下回りました。

特定乳製品向けは乳製品在庫の安定確保が計画生産上の命題となりましたが、全国的な生産の回復と飲用の減退が相俟って、年度当初から前年を上回って推移し年度実績では7%の増加となりました。

しかしながら限度数量枠1,830千トンに対しては85千トン未達の1,745千トンとなりました。

②当連合会の用途別販売状況（公共施設分含む）は、飲用牛乳向け前年度実績比101.6%と受託実績並みの増加となりましたが、醗酵乳等向けは同98.2%、生クリーム向けは同96.1%と前年度割れとなったことから加工向けについては前年を大幅に上回り同116.3%となりました。

なお、加工原料乳認定数量の12,076トンは当初の国の割り当て限度数量11,483トンを上回ったが全国の限度数量が未消となったことから国の最終調整で認定数量の全量が補給金の対象となりました。

ク) 牛乳・乳製品消費促進及び酪農理解醸成について

ミルク●ジャパン（牛乳消費喚起対策事業）を継続して実施し、平成24年度は鳥取県、島根県を牛乳消費喚起対策事業の重点地区とし、

両県会員の合同企画によるミルク●ジャパン in山陰を平成25年2月2日に松江市の島根県立産業交流会館（くにびきメッセ）において開催しました。また岡山市に於いて、平成24年11月10日に第2回中国地区牛乳・乳製品料理コンクールを開催しました。

ケ) 生乳安全安心確保対策

中販連独自の新様式により「生産管理チェックシートへの記帳記録の皆実施」に向け取り組み、また、「生乳への混入リスク

のある箇所への殺菌・消毒剤の適正使用」について、昨年度に引き続き県域組織と連携を図り積極的な指導を行いました。

コ) 補助事業への取り組み

行政・農畜産業振興機構及び中央酪農会議等の指導を得ながら4の補助事業に取り組み、実績総額は164,366千円となりました。

以上の事業実績に伴う決算状況は別掲（貸借対照表・損益計算書）のとおりです。

第13年度(平成25年3月31日現在)貸借対照表

(単位:円)

科 目	金 額
(資産の部)	
流動資産	2,657,657,259
現金	243,855
預金	343,876,246
系統預金	300,181,387
普通貯金	170,181,387
定期貯金	130,000,000
系統外預金	43,694,859
事業未収金	2,324,945,166
受託販売未収金	2,871,632,911
未収生産者補給金	53,312,255
雑資産	23,171,922
未収金	14,520,303
立替金	209,444
仮払金	7,864,325
前払費用	577,920
繰延税金資産	
貸倒引当金(△)	△34,580,000
固定資産	4,585,069
有形固定資産	468,669
工具器具備品	468,669
無形固定資産	582,400
電話加入権	218,400
ソフトウェア	364,000
外部出資その他資産	3,534,000
系統出資	2,000,000
敷金	1,534,000
繰延資産	
資産の部合計	2,662,242,328

科 目	金 額
(負債の部)	
流動負債	2,615,037,020
短期借入金	0
当座貸越	0
系統短期資金	0
受託販売未払金	2,222,892,486
受託販売費用未払金	46,801,118
未払生産者補助金	53,312,255
雑負債	290,337,174
未払金	13,764,900
未払法人税等	1,881,500
事業預り金	86,907,260
受入保証金	187,781,514
仮受金	2,000
前受収益	0
賞与引当金	1,693,987
繰延税金負債	0
固定負債	4,184,023
長期金銭債務	0
長期借入金	0
長期末払金	0
役員退任慰労引当金	4,184,023
長期繰延税金負債	0
負債の部計	2,619,221,043
(純資産の部)	
出資金	20,000,000
回転出資金	
資本準備金	
利益剰余金	
利益準備金	11,850,000
その他利益剰余金	
任意積立金	
当期末処分剰余金	11,171,285
会員資本合計	43,021,285
負債及び純資産の部合計	2,662,242,328

第13年度(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

損益計算書

(単位:円)

科 目	金 額	
1 事業総利益		75,704,607
(1)販売事業収益	32,978,964,776	
受託生乳販売高	31,281,988,518	
受託販売手数料	76,748,695	
受託業務受託料	1,549,066,708	
広域検査受託料	71,160,855	
(2)販売事業費用	32,903,260,169	
生乳受託受入高	31,281,994,235	
販売業務委託料	1,550,394,711	
広域検査委託料	70,871,223	
2 事業管理費		87,073,068
(1)人件費	50,517,708	
(2)業務費	18,280,587	
(3)諸税負担金	6,323,800	
(4)施設費	8,450,973	
(5)その他事業管理費	3,500,000	
事業利益		-11,368,461
3 事業外収益		172,696,599
(1)受取利息	106,728	
(2)受取出資配当金	40,000	
(3)雑収入	1,258,850	
(4)受入生産者補給金	147,324,418	
(5)受入補助金	23,966,603	
4 事業外費用		158,898,390
(1)支払利息	0	
(4)雑損失	0	
(5)支払生産者補給金	147,324,418	
(6)支払補助金	11,573,972	
経常利益		2,429,748
5 特別利益		
(1)固定資産処分益		
(2)退任慰労金引当戻入		
6 特別損失		
(1)固定資産売却損		
(2)固定資産除却損		
(3)減損損失		
(4)その他の特別損失		
税引前当期利益		2,429,748
法人税、住民税及び事業税		1,276,583
法人税等調整額		
当期剰余金		1,153,165
前期繰越剰余金		10,018,120
当期末処分剰余金		11,171,285

2. 第二号議案

役員を選任について

本年は役員改選期にあたり、各会員から推薦を受けた役員推薦委員で構成する役員推薦会議による協議を経て推薦された理事候補者6名・監事候補者2名が各々承認され、総会後の理事会における互選により下記の役員体制となりました。

理事

役 職	氏 名	推 薦 団 体
代表理事会長	東山 基	おかやま酪農業協同組合
代表理事副会長	幅田信一郎	大山乳業農業協同組合
代表理事常務	鍵山 信儀	中販連役員推薦会議
理 事	原田 康典	山口県酪農業協同組合
理 事	岩竹 重城	広島県酪農業協同組合
理 事	大谷 博英	全国農業協同組合連合会島根県本部

監事

役 職	氏 名	推 薦 団 体
代表監事	鈴木 道弘	広島県酪農業協同組合
監 事	岡田 穂積	おかやま酪農業協同組合

<参考>

1. 平成25年度事業計画主要事項…

第8回臨時総会にて承認(平成25年4月15日)

- (1)TPP加入反対に係る世論喚起活動への取り組み
- (2)会員組織の一体的運営による増産型計画生産の達成
- (3)HOSTY生乳生産基盤復元計画の着実な実行
- (4)生産コストの動向を踏まえた適正乳価の実現交渉
- (5)安全安心新システムの普及定着及び記録・記帳の完全実施
- (6)生乳取引の円滑化及び乳質基準の整備統合
- (7)指定団体組織・機能の整備強化及び生乳共販事業の合理化の促進
- (8)ミルクJAPANを核とした牛乳消費拡大対策の実施

2. 経費の賦課体系

(1)賦課金の額及び賦課方法

販売手数料	毎月の本会委託数量1当り	0.260円
集乳経費	//	2.913円
送乳経費	//	1.614円
C S経費	//	0.640円
生乳検査手数料	//	0.140円
生産基盤活性化対策資金	//	0.170円
(内訳) 生産基盤活性化対策事業		0.120円
自然災害発生時乳代見舞金制度		0.050円

第13回通常総会 ～会長あいさつ～

中国生乳販売農業協同組合連合会
代表理事会長

東山 基



本日の第13回中国生乳販売農業協同組合連合会通常総会に皆様方のご出席賜りましたことを厚く御礼申し上げます。特に農林水産省 富澤課長補佐様、はじめ農政局関係者の皆様また中央酪農会議 迫田専務理事様 公務ご多忙の折ご出席を賜り心から感謝申し上げますところであります。各会員・行政関係者の皆様方にもご臨席いただきまして誠にありがとうございます。会員の皆様方には顔を合わせば「暑いな」という言葉が定番になったなかで、酪農生産現場は大変な状態にあります。その中で日々ご苦勞を重ねていらっしゃる中で、ご出席いただきましたことを感謝申し上げます。

機会の有るごとに言われておりますが、先の参議院選挙は自民党の圧勝に終わり、ねじれが解消したことにより農政に対する不安感が払拭され、しっかりした日本の農業を作っていただくと言う政治を我々は望んだわけではありますが、反面TPPの今後の行方も不安を抱かせつつある現状であります。酪農現場では円安による飼料資材の高騰の中で今回の乳価交渉は最後の詰めは残っているものの、飲用乳価5円の値上げで決着しようとしております。個人的には非常に残念で、また力が及ばなかった結果だと悔やんでおります。しかしそれにも増していまの乳業メーカーは我々生産者同様に非常にディスカウンター圧力のなかで各社の経営が圧迫されている現状であります。このような様々の状況のなかで私どもがどのように指定団体機能を維持

していけるのか、酪農現場を支援できるか更に問われる状態ではないかなと思います。

本日までご提案申し上げる24年度事業の報告に致しましても精一杯の努力を重ねてきた訳ではありますが、特筆すべきは前年を上回る生産乳量という事になるかと思えます。

この25年度第一四半期を終わったばかりではございますが、各県のなかで更に廃業が続いている現状のなかで、この生産は非常に貴重なものであり、それぞれの酪農生産者の皆様にも感謝申し上げますのでございます。そういう中で25年の新しい事業展開に付きしても域内需給の安定と酪農生産現場の支援に限りなく力を尽くしてゆきたいというご提案を本日申し上げる訳であります。この乳価交渉で感じたことでありますが、新しい乳価交渉、牛乳価格の在り方という決め方のルール作りであるとか、或いはその期中に経験いたしました配合価格安定基金の枯渇に対する様々な問題、こういうことについて新しい制度づくりの議論が今年尽くされようとしています。そういうものに対しましても我々は注意深く酪農生産を守る立場から、この議論のなかで出来る限り加わりながら中国生乳販売農業協同組合連合会の指定団体としての役割と言うものをもう一度新たに見つめなおす必要があると心引き締める次第であります。関係機関の皆様方の更なるお力添えを頂きながら25年度乗り切りたいと最後をお願い申し上げますながら開会に当たってのご挨拶といたします。

総会に寄せて ～来賓ごあいさつ～

農林水産省
生産局畜産部牛乳乳製品課
課長補佐

富澤 宗高



本日は、中国生乳販売農業協同組合連合会第13回の通常総会の開催に当たりまして一言ご挨拶させていただきます。まず始めに本日まで参加頂いている皆様方におかれましては日頃より我が国の酪農乳業発展のためにご尽力頂いていますことにまず御礼申し上げたいと思います。さて最近の生乳需給でありますけれども会長のご挨拶にありましたが、昨年24年に付きましては久しぶりの増産という事で都府県におきましては、16年振りという事でございました。いろいろ諸般厳しい状況の中皆様のご努力の賜物と考えております。

今年は西日本が大変暑い中で中期の計画生産においても増産の目標をたてておりますので、また一層皆様のご努力をお願いいたします。

エサの関係でございますが、会長のご挨拶のなかにもございましたが、25年第二四半期は今までのエサの中では史上最高の配合飼料の価格になるということでございまして、配合飼料の基金のほうも今までの補填が続いてきたこともございまして、通常基金のなかの補填が厳しかったのでありますが、自民党でのご議論を頂きながら、通常補填のところで基金で賄えない部分の1/2の1,325円相当を国費で支援させて頂くことにさせていただいたところでございます。また思い切った対策を打ったという事もございますので、配合飼料メーカーの皆様におかれましてはこの対策を踏まえて、農家さんの負担を

減らしていただきたいと私どものほうからも要請をしているところでございます。

25年度の飲用乳価につきましては、いろいろ厳しい交渉を踏まえまして皆様のご努力もあり5円の引き上げという事で、大手メーカーさんとはだいたい決まったと伺っていますが、この後消費者の皆様はこの引上げの部分もご負担いただくことが必要になってくると思います。消費者の皆様酪農の厳しい状況をご理解頂いて、牛乳の消費が維持され減らないようにすることが大切だと思っています。私どもの方と致しましても現存の補助事業を使いまして、生産者団体の皆様と連携しながら消費者の皆様理解して頂くための事業を農畜産振興機構のほうから公布していただいて、これを使ってぜひ理解を深めて頂きたいと思っております。

広域指定団体の制度が始まりまして今回で13回目という事で、合理化・配乳に付きましても、皆様のご努力頂き今の体制が出来上がったという事でございます。なお一層指定団体制度を充実させていくというところが必要となると考えておりますので今後ますますの中国生乳販売農業協同組合連合会のご発展を祈念致しまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

総会に寄せて ～来賓ごあいさつ～

一般社団法人 中央酪農会議
専務理事

迫田 潔



6月21日の中央酪農会議総会に於きまして、専務に選任されております。今後ともよろしくお願いいたします。中国生乳販売農業協同組合連合会第13回通常総会の開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。日頃より東山会長をはじめと致しまして中国生乳販連の方々には中央酪農会議の活動をご指導いただきまして心より感謝しております。

先ほどから、お話が有りましたように酪農情勢につきましては、エサの高止まりということで、非常に酪農経営が厳しい状況でございます。国からの配合飼料補填基金の支援を頂きながら、各指定団体の粘り強い乳価交渉の結果10月には飲用乳価につき5円の値上げが決定したと聞いております。指定団体の幹部の方々のご努力に心から敬意を表する所でございます。今後は10月以降の牛乳小売価格の転嫁が重要な訳でありますけれども、一昨日あたりから大手乳業さんが1～4%の卸売価格の上げという事を公表しております。我々と致しましてもこのことは非常に重要だという事を認識しておりまして、中央酪農会議と致しましても指定団体の方々と協力しながら卸売価格の値上げを側面的に支援して、酪農家の立場を訴える活動を強化しようという事で進めている所でございます。またTPP交渉に付きましても一昨日から本日までマレーシアで交渉に参加しております。酪農家の方々にも不安が広がっているという事で、我々と致し

ましても他の畜種・生産者団体と連携して交渉の行方を慎重に見守りながら必要な対応については、役員の方々と相談をして迅速に対応して参りたいと思っています。一つご報告でございますが、本会議は昭和37年度に設立されて昨年度で50周年を迎えております。こうした節目を迎えましてこの度50年の活動記録として、「中央酪農会議50年の足跡」を取りまとめて関係者の方々に配布させて頂きました。中央酪農会議がこの間幾多の苦難を克服して今日あるのは全国の酪農家の方々の絶え間ざる努力と中国生乳販売農業協同組合連合会をはじめとする業界関係各位のご理解・ご協力並びに指導の賜物であり、この場を借りて厚く感謝申し上げます。我が国の酪農は非常に困難な課題が山積しております。中国生乳販売農業協同組合連合会におかれましても、中国地域だけではなくて今後の全国の酪農が安定的持続的に発展が図られますように更なるご尽力をお願い申し上げまして私のご挨拶とさせていただきます。

生乳受託販売委員会並びに理事会にて、 大手乳業提示の飲用向けキロあたり 5円の値上げ回答を受け入れへ

平成25年7月3日(水)岡山市北区桑田町アパホテルにて平成25年度第1回生乳受託販売委員会(以下、販売委員会)・第5回理事会を開催し、大手乳業から提示された乳価回答への対応等の協議を行いました。

以下、販売委員会の開催結果を中心に報告いたします。

【交渉経過等】

1. 要求額の決定

平成25年1月30日開催の販売委員会にて、最近の円安に伴う飼料高騰を受け、①平成25年度乳価の申し入れについて大幅な値上げ(キロ5円以上の認識)を行う。②具体的には第1四半期の配合飼料価格の動向を見極めて理事会で単価を設定する旨の方針を決定しました。3月中旬には、第1四半期配合飼料価格が決定し、平成25年3月28日開催の理事会にて、平成24年度上半期の生乳生産費をベースに本年度想定される飼料価格見通しを反映した費用上昇分を要求額とし、学乳を除く飲用向け並びに醗酵乳等向けに対してキロあたり7円の値上げ要求を決定し、大手乳業者を中心に交渉に当たりました。

2. 交渉経過

平成24年度末から25年度当初にかけては、要求単価の水準が乳業者負担で支払える金額ではないため、市場への価格転嫁が避けられないとの想定の下に、流通小売等への理解訴求が必要なことから、営業担当部署も含めた乳業者説明会を各地で開催し、独自のリーフレット「日本の酪農が再び危機に直面しています」による酪農現場での危機的な状況を訴え、乳業者との情報の共有を図って参りました。

交渉は大手乳業3社(明治・森永・雪印メグミルク)を先行させ、本会役員による本社直接交渉も行いました。



乳業者は、飼料高騰への理解は示すものの牛乳の安売りが常態化し、価格転嫁への支障が想定されるとの懸念が提起されました。このため公正取引委員会より講師を招へいし、不当廉売に関する講習会を開催し、是正に係る申告活動については、各県酪農政治連盟に協力を求めました。活動結果として、公正取引委員会から関係人注意の措置が取られた店舗においてはチラシから廉売牛乳が削除されるなど効果を得ました。

また、管内の流通小売業者への理解を深めるために、中央で企画する新聞広告と同時期の6月28日に管内各県の地方紙にも独自の新聞広告を掲載し乳価値上げへの理解訴求に努めました。

3月末に要求額を提示して交渉に入ったものの川上の酪農経営の窮状打開を訴える指定団体と川下の流通小売事情を背景に値上げに難色を示す乳業側との主張は平行線を辿りました。

このような膠着状態の中で第2四半期配合飼料価格の公表を受けて交渉の進展を見ることとなり6月中旬頃から順次大手3社からの回答が提示されました。

3. 回答内容

大手3社からの主な回答は①飲用向け(学乳、醗酵乳を除く)キロあたり5円の値上げ②時期は、10月分

乳代から対象とする提示となりました。

加えて小売価格の改定には概ね3か月を要するため、10月からの値上げ実行のためには、指定団体に対し早期の回答が求められました。

4. 平成25年度下期プール乳価の見込み

今回の値上げで想定される生産者の手取り乳価については、当連合会では約65%の飲用取引率があることから計算上はキロあたり3円25銭の上昇となります。しかしながら、小売価格の値上げによって10月以降の消費動向が見通せない状況にあることから、消費減退による加工向け処理の増加によっては、値上げ予定分が確保されないことも想定されます。このため、消費拡大運動が不可避となります。

5. 販売委員会・理事会での見解

以上のような経過を踏まえ、販売委員会における協議が行われました。その結果、今回の値上げ回答は、小売価格の改定と連動しているため、指定団体の足並みが揃わなければ乳価改定時期に遅れが生じ、生産者は窮状の長期化を余儀なくされる。このため回答内容には不満が残るものの了解せざるを得ないという意見集約となり、最終的な乳価の取扱いは本会理事会に一任されました。

今後の情勢に大きな変化がもたらされた時には必要に応じて販売委員会を開催し対応を検討することにしております。

6. 今回の交渉がもたらす課題

生乳の値上げによって消費の減退が生じては元も子もありません。生産者も乳業者と一体となって酪農理解醸成に努める必要があります。

また、購入飼料主体の酪農経営体では昨秋と比較しキロあたり7円以上の生産費の上昇が見込まれており、乳価改定後も厳しい経営状況が想定されます。国策としての円安誘導により、購入飼料の高止まりは続くものと思われまます。牛舎環境の改善や個体管理技術の向上による高泌乳牛群への移行、更には自給飼料基盤に立脚した経営への転換等が重要課題となります。以上の課題への対応に当たっては国に対しても都府県酪農対策の充実などを訴えて行かねばなりません。

乳業側も精一杯の回答であったと思います。関係各位のご努力によりこの難局を乗り越えるようご理解とご協力をお願いいたします。

**新鮮でおいしい地元産牛乳の安定生産に頑張ります。
酪農家への応援よろしくお願いします。**

世界の穀物相場は高値で推移。輸入しているエサ代が急騰しています。それは酪農家の経営努力をもってしても追いつきません。

生産者乳価の値上げにご理解をお願いします。



中国生乳販売農業協同組合連合会 岡山県岡山市北区桑田町1-30 TEL.086-236-3371
 大山乳業農業協同組合 全国農業協同組合連合会島根県本部 おかやま酪農協同組合 広島県酪農協同組合 山口県酪農協同組合



管内酪農家全戸を対象に 経営意向調査を実施

今年5月～6月にかけて、中国管内酪農家全戸（827戸）を対象に経営意向調査を実施して頂きました。ここでは、その調査並びに調査結果につきまして、概要をご説明いたします。

経営意向調査について

この調査は、今年度の新規事業である『加工原料乳確保緊急対策事業※』の一環として実施したものです。

※加工原料乳確保緊急対策事業は、生乳の安定確保に関する必要な取組に対して補給金単価に30銭を上乗せする事業です。今年度の補給金単価は加工向け生乳1kg当たり12.55円ですが、これに30銭を上乗せすると補給金単価は12.85円となります。

主な調査項目は、〔Ⅰ〕基本情報、〔Ⅱ〕5月1日現在の経営・飼養管理状況、〔Ⅲ〕H24年度の生産実績、〔Ⅳ〕今後の3年間の計画（平成25年～27年度）の4項目です。

特に、〔Ⅳ〕今後3年間の計画（平成25年～27年度）

においては、①今後3年間に生乳出荷を増減する予定について、②後継者の有無について、③今後3年間に搾乳を中止する予定があるかどうか等について尋ねており、これらの調査結果を基に酪農家の現状や今後の経営意向等の把握に向け、また、酪農家戸数の減少を防ぐための対策等の検討に活用して参ります。

調査結果について

調査結果につきましては、それぞれの設問ごとの集約結果の一部を下表にまとめましたのでご参照ください。

〔Ⅰ〕基本情報

	中販全体	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県
調査対象戸数	827戸	160戸	134戸	312戸	159戸	62戸
(1)牧場主（経営主）の平均年齢	57.9歳	56.3歳	61.6歳	57.3歳	58.0歳	56.5歳
(2)従業者数の平均人数						
・家族等	2.3人	2.3人	2.1人	2.3人	2.3人	2.3人
・家族以外（雇用等）	0.5人	0.4人	1.0人	0.3人	0.5人	0.2人
(3)経営形態						
・法人経営	8.9%	3.1%	9.7%	9.3%	13.8%	8.1%
・法人経営以外	91.1%	96.9%	90.3%	90.7%	86.2%	91.9%
(4)飼養形態						
・フリーストール	8.2%	15.6%	8.2%	4.5%	5.7%	14.5%
・フリーバーン	9.9%	9.4%	7.5%	10.6%	10.1%	12.9%
・繋ぎ	80.8%	75.0%	83.6%	83.0%	83.0%	72.6%
・その他	1.1%	0.0%	0.7%	1.9%	1.3%	0.0%
(5)主な搾乳形態						
・パーラー	16.6%	23.8%	13.4%	12.5%	14.5%	30.6%
・パイプライン	74.6%	65.0%	76.9%	78.8%	79.9%	59.7%
・搾乳ロボット	0.7%	0.6%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
・その他	8.1%	10.6%	9.7%	7.1%	5.7%	9.7%
(6)自動給餌機						
・有	14.4%	6.3%	11.9%	19.6%	20.1%	0.0%
・無	85.6%	93.8%	88.1%	80.4%	79.9%	100.0%
(7)自家発電機						
・有	8.6%	0.0%	5.2%	8.0%	15.7%	22.6%
・無	91.4%	100.0%	94.8%	92.0%	84.3%	77.4%

〔Ⅱ〕飼養管理状況（平成25年5月1日現在）

	中販全体	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県
(1)総飼養頭数の						
・平均頭数	58.5頭	64.0頭	76.8頭	50.7頭	55.2頭	51.5頭
・最大頭数	1563頭	484頭	1563頭	594頭	921頭	243頭
・最小頭数	2頭	2頭	2頭	4頭	2頭	5頭
(2)経産牛頭数の						
・平均頭数	41.4頭	40.5頭	56.8頭	37.4頭	39.3頭	35.8頭
・最大頭数	1044頭	272頭	1044頭	504頭	619頭	158頭
・最小頭数	2頭	2頭	2頭	4頭	2頭	3頭

【Ⅲ】平成24年度の実績

	中販全体	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県
(1)平均経産牛増減頭数（期末頭数－期首頭数）	0.0 頭	▲ 0.2 頭	2.4 頭	▲ 0.5 頭	▲ 0.5 頭	▲ 0.4 頭
(2)農家単純平均総出荷乳量	351 ト	369 ト	469 ト	309 ト	336 ト	295 ト
・最大乳量	9,730 ト	2,792 ト	9,730 ト	4,812 ト	4,901 ト	1,406 ト
・最小乳量	7 ト	10 ト	13 ト	10 ト	7 ト	35 ト

※平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

【Ⅳ】今後3年間の計画（平成25年～27年度） ※本項目の調査結果は中販全体での集約数値

(1)今後の出荷乳量について

平成25年度の生乳出荷予定・・・平成24年度に比べて	・増やす 26.1 %	・減らす 10.3 %	・同程度 63.7 %
平成26年度の生乳出荷予定・・・平成25年度に比べて	・増やす 27.3 %	・減らす 9.4 %	・同程度 63.3 %
平成27年度の生乳出荷予定・・・平成26年度に比べて	・増やす 21.1 %	・減らす 11.0 %	・同程度 68.0 %

(2)飼養形態（フリーストール・フリーバーン等）の変更計画の有無	有 1.8 %	無 98.2 %
(3)搾乳形態（パーラー等）の変更計画の有無	有 1.5 %	無 98.5 %
(4)畜舎等の増改築計画の有無	有 11.4 %	無 88.6 %
(5)増頭計画の有無	有 22.6 %	無 77.4 %
i)上記増頭計画が「有」の場合の具体的な計画の有無	有 63.3 %	無 36.7 %
ii)上記増頭計画が「有」の場合の資金計画の有無	有 32.6 %	無 67.4 %
iii)上記増頭計画が「有」の場合の技術指導先の有無	有 47.5 %	無 52.5 %

(6)後継者について

16歳以上の就農している後継者がいる。	19.3 %
16歳以上の就農予定の後継者がいる。	6.4 %
後継者はいない。	41.7 %
わからない・未定・その他。	32.5 %

(7)今後3年間（平成25～27年度）に搾乳を中止する予定	有 9.9 %	無 90.1 %
-------------------------------	---------	----------

(8)後継者がおらず、今後3年間に搾乳を中止する可能性がある場合	考えている	今は未だ考えていない
i)牛の譲渡先を具体的に考えているか。	27.8 %	72.2 %
ii)畜舎の譲渡先を具体的に考えているか。	2.8 %	97.2 %
iii)草地の譲渡先を具体的に考えているか。	7.2 %	92.8 %
iv)畜舎・草地を第三者に譲渡することを考えているか。	2.9 %	97.1 %

この中で、酪農家戸数（調査対象戸数）につきましては、今年5月1日時点で827戸となっておりますが、定期調査の結果から平成21年6月には1000戸を、平成23年8月には900戸を割り込んでおり、中国管内の酪農家戸数は毎年40～50戸のペースで減少し続けております。

また、【Ⅳ】今後3年間の計画（平成25年～27年度）において、中国全体の集約結果では、

(1)出荷乳量について、3ヵ年とも、2割以上が“前年よりも増やす予定”と回答したものの、約1割が“減らす予定”と回答、

(6)後継者について、約4分の3が“いない”もしくは“わからない・未定・その他”と回答、

(7)今後3年間に搾乳を中止する予定について、約1割が“有る”と回答、

という厳しい内容になっております。

今後の課題について

特に、これらの“生産中止”もしくは“生産量減少”の意向を持たれている酪農経営者におかれましては、①如何に現状以上の生乳生産活動を継続していくか、また、②どうしても離農が避けられない場合、如何に第三者への乳用牛その他土地機械施設等を円滑に継承していくかが今後の大きな課題であります。これらの大変難しい問題を少しでも解決していくためには関係機関が一致協力して対策を練って行かなければならないと思っております。

なお、調査にご協力いただいた酪農家の方々の不利益とならないように、収集した情報は「個人情報の保護に関する法律」に基づき適正に管理し、個人を特定できる情報は公開いたしません。

中販連生乳受託販売実績報告

〔Ⅰ〕生乳受託実績の推移

(単位：t、%)

月	受託数量	広島	岡山	島根	鳥取	山口	中販連計	都府県	全国
4月	総数量	4,618	8,780	5,629	5,165	1,567	25,759	306,814	628,055
	前年比	99.0%	99.4%	104.8%	99.8%	94.9%	100.3%	99.3%	100.4%
	平均日量	153.9	292.7	187.6	172.2	52.2	858.6	10,227.1	20,935.2
5月	総数量	4,762	8,905	5,679	5,276	1,595	26,218	313,407	648,856
	前年比	97.4%	97.9%	101.6%	99.0%	94.2%	98.6%	99.1%	100.3%
	平均日量	153.6	287.3	183.2	170.2	51.5	845.8	10,109.9	20,930.8
6月	総数量	4,427	8,238	5,318	4,937	1,498	24,418	291,246	617,849
	前年比	96.6%	97.7%	100.0%	99.7%	94.3%	98.2%	98.3%	99.8%
	平均日量	147.6	274.6	177.3	164.6	49.9	813.9	9,708.2	20,595.0
7月	総数量	4,427	7,947	5,218	4,845	1,476	23,913	284,887	609,366
	前年比	97.4%	96.9%	99.4%	99.2%	95.8%	97.9%	97.8%	98.3%
	平均日量	142.8	256.4	168.3	156.3	47.6	771.4	9,189.9	19,657.0

〔Ⅱ〕会員別出荷戸数及び乳用牛飼養頭数の推移

1. 会員別生乳出荷戸数の推移

(単位：戸数)

県別	3月	7月	7月-3月	低減率
広島	158	153	▲5	96.84%
岡山	317	308	▲9	97.16%
島根	136	132	▲4	97.06%
鳥取	159	158	▲1	99.37%
山口	63	62	▲1	98.41%
中販計	833	813	▲20	97.60%

2. 乳牛雌牛頭数月別推移表

(単位：頭数、%)

県	月	年度	1歳未満	1~2歳未満	2~6歳未満	6歳以上	合計	県	月	年度	1歳未満	1~2歳未満	2~6歳未満	6歳以上	合計
広島	4月	24年度	1,337	1,331	5,730	1,647	10,045	鳥取	4月	24年度	1,732	1,717	5,449	1,347	10,245
		25年度	1,339	1,418	5,647	1,671	10,075			25年度	1,809	1,495	5,439	1,253	9,996
		前年対比	100.1%	106.5%	98.6%	101.5%	100.3%			前年対比	104.4%	87.1%	99.8%	93.0%	97.6%
	5月	24年度	1,334	1,326	5,768	1,632	10,060		5月	24年度	1,704	1,686	5,436	1,340	10,166
		25年度	1,351	1,409	5,590	1,664	10,014			25年度	1,762	1,475	5,415	1,222	9,874
		前年対比	101.3%	106.3%	96.9%	102.0%	99.5%			前年対比	103.4%	87.5%	99.6%	91.2%	97.1%
	6月	24年度	1,340	1,319	5,735	1,634	10,028		6月	24年度	1,745	1,601	5,460	1,337	10,143
		25年度	1,359	1,399	5,545	1,657	9,960			25年度	1,746	1,501	5,352	1,207	9,806
		前年対比	101.4%	106.1%	96.7%	101.4%	99.3%			前年対比	100.1%	93.8%	98.0%	90.3%	96.7%
	7月	24年度	1,328	1,321	5,704	1,629	9,982		7月	24年度	1,725	1,540	5,429	1,342	10,036
		25年度	1,358	1,394	5,514	1,674	9,940			25年度	1,705	1,526	5,353	1,181	9,765
		前年対比	102.3%	105.5%	96.7%	102.8%	99.6%			前年対比	98.8%	99.1%	98.6%	88.0%	97.3%
岡山	4月	24年度	2,378	2,432	9,828	3,270	17,908	山口	4月	24年度	518	523	1,965	753	3,759
		25年度	2,477	2,471	9,692	3,016	17,656			25年度	480	523	1,924	750	3,677
		前年対比	104.2%	101.6%	98.6%	92.2%	98.6%			前年対比	92.7%	100.0%	97.9%	99.6%	97.8%
	5月	24年度	2,412	2,389	9,791	3,259	17,851		5月	24年度	505	509	1,972	756	3,742
		25年度	2,495	2,472	9,595	2,929	17,491			25年度	497	511	1,935	736	3,679
		前年対比	103.4%	103.5%	98.0%	89.9%	98.0%			前年対比	98.4%	100.4%	98.1%	97.4%	98.3%
	6月	24年度	2,431	2,323	9,724	3,212	17,690		6月	24年度	501	489	1,977	758	3,725
		25年度	2,421	2,480	9,465	2,869	17,235			25年度	502	513	1,905	730	3,650
		前年対比	99.6%	106.8%	97.3%	89.3%	97.4%			前年対比	100.2%	104.9%	96.4%	96.3%	98.0%
	7月	24年度	2,408	2,271	9,745	3,185	17,609		7月	24年度	503	471	1,964	755	3,693
		25年度	2,423	2,461	9,423	2,857	17,164			25年度	504	496	1,898	742	3,640
		前年対比	100.6%	108.4%	96.7%	89.7%	97.5%			前年対比	100.2%	105.3%	96.6%	98.3%	98.6%
島根	4月	24年度	1,292	1,383	5,878	1,843	10,396	合計	4月	24年度	7,257	7,386	28,850	8,860	52,353
		25年度	1,407	1,303	6,064	1,722	10,496			25年度	7,512	7,210	28,766	8,412	51,900
		前年対比	108.9%	94.2%	103.2%	93.4%	101.0%			前年対比	103.5%	97.6%	99.7%	94.9%	99.1%
	5月	24年度	1,311	1,362	5,884	1,848	10,405		5月	24年度	7,266	7,272	28,851	8,835	52,224
		25年度	1,384	1,334	6,012	1,691	10,421			25年度	7,489	7,201	28,547	8,242	51,479
		前年対比	105.6%	97.9%	102.2%	91.5%	100.2%			前年対比	103.1%	99.0%	98.9%	93.3%	98.6%
	6月	24年度	1,340	1,324	5,921	1,810	10,395		6月	24年度	7,357	7,056	28,817	8,751	51,981
		25年度	1,357	1,343	6,003	1,680	10,383			25年度	7,385	7,236	28,270	8,143	51,034
		前年対比	101.3%	101.4%	101.4%	92.8%	99.9%			前年対比	100.4%	102.6%	98.1%	93.1%	98.2%
	7月	24年度	1,357	1,318	5,935	1,826	10,436		7月	24年度	7,321	6,921	28,777	8,737	51,756
		25年度	1,374	1,348	5,972	1,644	10,338			25年度	7,364	7,225	28,160	8,098	50,847
		前年対比	101.3%	102.3%	100.6%	90.0%	99.1%			前年対比	100.6%	104.4%	97.9%	92.7%	98.2%

〔Ⅲ〕平成25年度生乳需給管理表

(単位：t、%)

		4月	5月	6月	7月	合計
生乳受託数量 (含む公共分)	前年	25,749	26,663	24,936	24,478	101,826
	実績	25,819	26,277	24,474	23,963	100,533
	前年比	100.3%	98.6%	98.1%	97.9%	98.7%
域内需要	前年	23,598	24,564	22,765	22,280	93,207
	当年	23,549	24,173	22,464	22,049	92,235
	前年比	99.8%	98.4%	98.7%	99.0%	98.9%
域外需要	前年	2,151	2,099	2,171	2,198	8,619
	当年	2,270	2,104	2,010	1,914	8,298
	前年比	105.5%	100.2%	92.6%	87.1%	96.3%

〔Ⅳ〕平成25年度用途別販売実績

(単位：kg、円)

		4月		5月		6月		7月		合計	
			前年対比		前年対比		前年対比		前年対比		前年対比
販売乳量		25,819	100.3%	26,277	98.6%	24,474	98.1%	23,963	97.9%	100,533	98.7%
鳥取		5,165	99.8%	5,276	99.0%	4,937	99.7%	4,845	99.2%	20,223	99.4%
島根		5,629	104.8%	5,679	101.6%	5,318	100.0%	5,218	99.4%	21,844	101.5%
岡山		8,780	99.4%	8,906	97.9%	8,238	97.7%	7,947	96.9%	33,871	98.0%
広島		4,678	99.1%	4,821	97.3%	4,483	96.5%	4,477	97.2%	18,459	97.5%
山口		1,567	94.9%	1,595	94.2%	1,498	94.4%	1,476	95.9%	6,136	94.8%
用途	飲用向	16,350	98.8%	16,497	97.8%	15,854	99.7%	15,990	97.7%	64,691	98.5%
	学乳向	1,668	103.0%	2,423	99.3%	2,372	93.5%	1,637	102.7%	8,100	98.9%
	小計	18,018	99.2%	18,920	98.0%	18,226	98.8%	17,627	98.1%	72,791	98.5%
	醗酵乳向	4,977	106.6%	5,021	103.4%	4,817	98.9%	5,049	102.8%	19,864	102.9%
	生クリーム向	1,033	89.8%	1,031	92.5%	937	96.7%	902	90.6%	3,903	92.3%
	チーズ向	40	100.0%	42	89.4%	41	99.3%	45	96.2%	168	95.9%
	加工向	1,751	101.7%	1,263	94.5%	453	73.9%	340	60.1%	3,807	89.8%
販売合計		25,819	100.3%	26,277	98.6%	24,474	98.1%	23,963	97.9%	100,533	98.7%



▼ 事業経過報告

(平成二十五年四月～七月)

- 4月 9日 補助事業説明会 (東京都)
- 10日 山口作業部会 (山口県)
- 15日 臨時総会、独禁法講習会 (岡山市)
- 19日 指定団体実務責任者会議 (東京都)
- 22日 山陽乳業打合せ (広島県)
- 23日 Jミルクポジティブリスト委員会 (東京都)
- 25日 明治・雪メグ本社打合せ (東京都)
- 26日 実務責任者会議 (岡山市)
- 5月 2日 鳥根県安全安心担当者会議 (鳥根県)
- 8日 中四国九州農協乳業協会 (博多市)
- 13日 岡山県製酪協会総会 (岡山市)
- 14日 岡山県製酪協会総会研修会 (津山市)
- 15日 指定団体実務責任者会議 (東京都)
- 16日 Jミルク需要創出会議 (東京都)
- 16日 Jミルク学乳特別委員会 (東京都)
- 22日 酪農教育ファーム全国地域合同会議 (東京都)
- 23日 補助事業説明会 (岡山市)
- 24日 山口県組織問題対策 (山口県)
- 28日 広島県酪農乳業定例会議 (広島市)
- 29日 広島県酪農乳業定例会議 (広島市)
- 30日 農政局フォトコンテスト審査 (岡山市)
- 31日 農政局フォトコンテスト表彰式 (岡山市)
- 6月 1日 牛乳の日学術フォーラム (東京都)
- 5日 メイプル牧場、木次乳業視察 (鳥根県)
- 6日 鳥根牛群検定協議会 (鳥根県)
- 7月 2日 山口県酪農問題協議 (山口県)
- 3日 指定団体実務責任者会議 (東京都)
- 12日 TPPパレード (岡山市)
- 13日 中販連理事会 (岡山市)
- 17日 中販連理事部会 (東京都)
- 18日 Jミルク総会 (東京都)
- 20日 中販連実務責任者会議 (岡山市)
- 21日 中酪理事会、総会 (東京都)
- 22日 食育推進全国大会 (広島県)
- 24日 おか酪総会 (津山市)
- 25日 ミルクッキングⅡ (岡山市)
- 26日 広酪総会 (三次市)
- 27日 酪農教育ファーム推進委員会 (岡山市)
- 28日 岡山県酪農乳業協会総会 (岡山市)
- 28日 中販連役員推薦会議 (岡山市)
- 7月 2日 中酪ミルクジャパン担当者会議 (東京都)
- 3日 理事会、販売委員会 (岡山市)
- 6日 交牧連ブロック会議 (岡山市)
- 9日 鳥根県販売委員会 (鳥根県)
- 9日 MILK JAPAN企画運営会議 (岡山市)
- 10日 全酪連ブロック会議 (大阪府)
- 11日 ポジティブリスト委員会 (東京都)
- 12日 山陽乳業・チチヤス乳価交渉 (広島県内)
- 16日 酪農教育ファーム出前講座 (鳥根県)
- 17日 岡山県酪農政治連盟通常総会 (津山市)
- 18日 指定団体実務責任者会議 (東京都)
- 18日 広島協乳乳価交渉 (広島県)
- 18日 安全安心担当者会議 (東京都)
- 22日 蒜山酪農協との打合せ (真庭市)
- 23日 やまぐち県酪乳業との懇談 (山口市)
- 26日 やまぐち県酪乳業との懇談 (山口市)
- 27日 鳥根県内メーカー乳価交渉 (鳥根県)
- 27日 中販連通常総会、理事会、監事会 (岡山市)
- 27日 親睦行事 (岡山県)

編集後記

今年の夏は非常に暑い夏となりました。各地では記録的な猛暑に見舞われ、四万十市では41度で観測史上最高の気温になり、熱中症により高齢者の方を中心に重篤な症状になる方も多かったです。これは暑さに対する感じ方が衰えて、手遅れになるケースも有ったようです。今後もしばらくは高温が続きますので、こまめに水分補給を行い適切にエアコン等の使用をお願いします。

8月22日からブルネイでTPP交渉会合がはじまりました。日本は聖域としている主要5品目+αを関税撤廃、未定、の品目として交渉に臨もうとしています。交渉の内容は守秘義務があり、開示できないと制限された情報により増幅された不安感を内包しながらTPP交渉は年末の交渉妥結へと加速されます。国民誰もが等しく享受できる「国益」を守るために熱い議論が展開されていますが、命を繋ぐ食糧が価格だけの物差しで判断されていいのでしょうか？当然そこには安心・安全そして供給の安定が絶対的に必要ではありません。10月から乳価値上げにより牛乳の小売価格の値上を各乳業メーカーが予定されています。弊会も皆様ともにあらゆる機会を捉えて消費の減退を引き起こさないために理解醸成活動を進めて参りますので、今後ともご支援・ご協力をお願いします。